



校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

生活における「居場所」づくりにどう取り組む？

生活における「居場所」の条件

- 1 安心して過ごせること
- 2 「伸びる」目的をもって過ごせること

<対応すべき3つの実態に応じた「居場所」づくり>

1 登校していない実態に応じた居場所づくり

- (1) 本音で話せる
- (2) 本人の興味・関心に沿う

- ① 本人の興味・関心を探り当てる。
- ② ①をきっかけに本音で話せる関係になる。
- ③ 当該子ども・当該保護者とつながり続ける。
- ④ 登校できなくても、「伸びる」目的をもった活動の支援が日々できている。
※タブレットによる授業参加を目指す。

2 登校しているが、教室に行けない実態に応じた居場所づくり

- (1) 理解者として寄り添う
- (2) やってみたいを引き出す

- ① 「かがやきルーム」を利用する子どもといっしょにつくる。
- ② 直接対話を通して、本人のよき理解者となる。
- ③ 直接対話の中から、本人のやってみたいを引き出す。
- ④ 本人のやってみたいを中心に、1日、又その先の生活計画を立てさせる。
※タブレットによる授業参加も徐々に加えながら
- ⑤ 計画に沿った生活を積み重ねる。
※教室に行ける機会を徐々に増やしなが

3 教室にはいるが、教室を居場所とは感じていない実態に応じた居場所づくり

「子ども同士が絆を感じる」を仕掛ける

- ① 学校・学年・学級の取組
- ② 異学年交流
- ③ 小中一貫・小中連携の取組
- ④ 「アガデミア」の取組
- ⑤ ボランティア活動 (AJV 活動等)

取組と評価の一体化

- ① 短期的な意識調査
- ② 行事等ごとの意識調査
- ③ 「Q-U」による評価改善